

吹 田 市 の 人 口 推 計

(総合計画審議会資料)

1 人口推計のしくみ

本市の今後の動向や将来像を考えるにあたって、将来人口をどうみるかが大きな要素となる。将来人口の推計については、社会経済的な状況などにより変動を受けるものであるためあくまで予測の域を出ないが、一定のデータに基づき推計を行った。推計にあたっては、国や府、市町村の人口推計において一般的な方法としてコーホート要因法が用いられているため、本市の第3次総合計画においてもこの方法を用いて、全市および市内7ブロック別の人口推計を行った。

1-1 第3次総合計画での推計における転出入率の設定

コーホート要因法では、社会移動による人口推移から算出される転出入率をどう設定するかで結果が大きく左右される。吹田市の場合、人口増減は自然増減よりも大幅に増減する社会増減の影響を強く受けていると考えられるが、第3次総合計画における推計では、社会移動を考慮する開放型については転出入率を過去5年間の値で設定し推計を行った。

また、社会移動を考慮しない封鎖型の推計も参考値として算出し、これら2つのパターンで比較検討を行う。

〔開 放 型〕 直近の社会環境の変化を重視し、過去5年間（平成7年から平成12年）の人口より設定される転出入率を用いた推計方法
〔封 鎖 型〕 社会移動を考慮しない推計方法

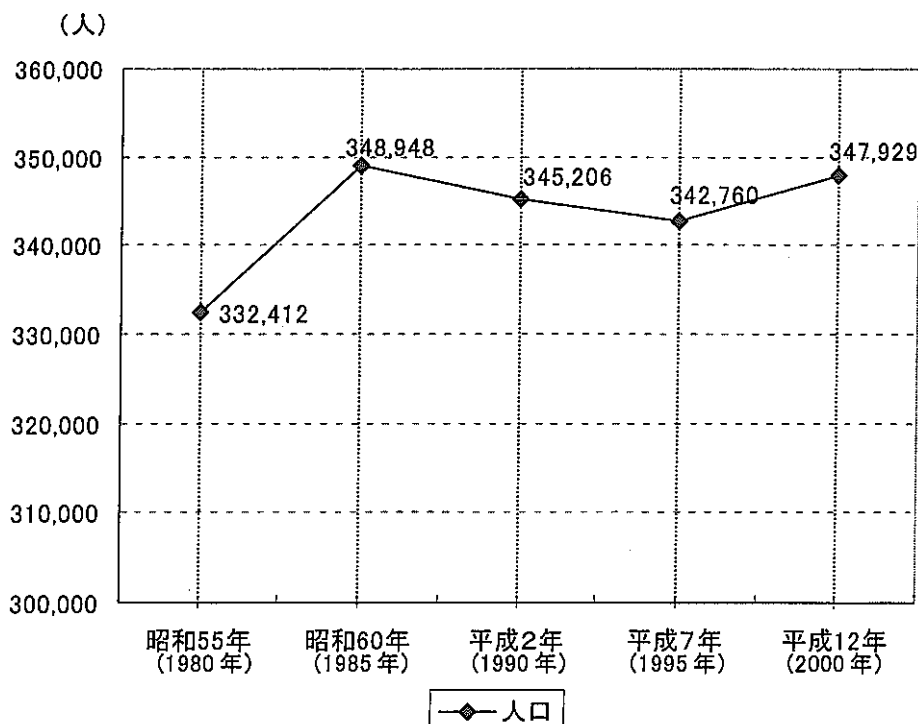


図1 実際人口の推移（吹田市全体）

2 吹田市全体での人口推計と評価

2-1 第3次総合計画の結果

「1. 人口推計の仕組み」で設定した2パターンで、吹田市の将来人口推計を行う。

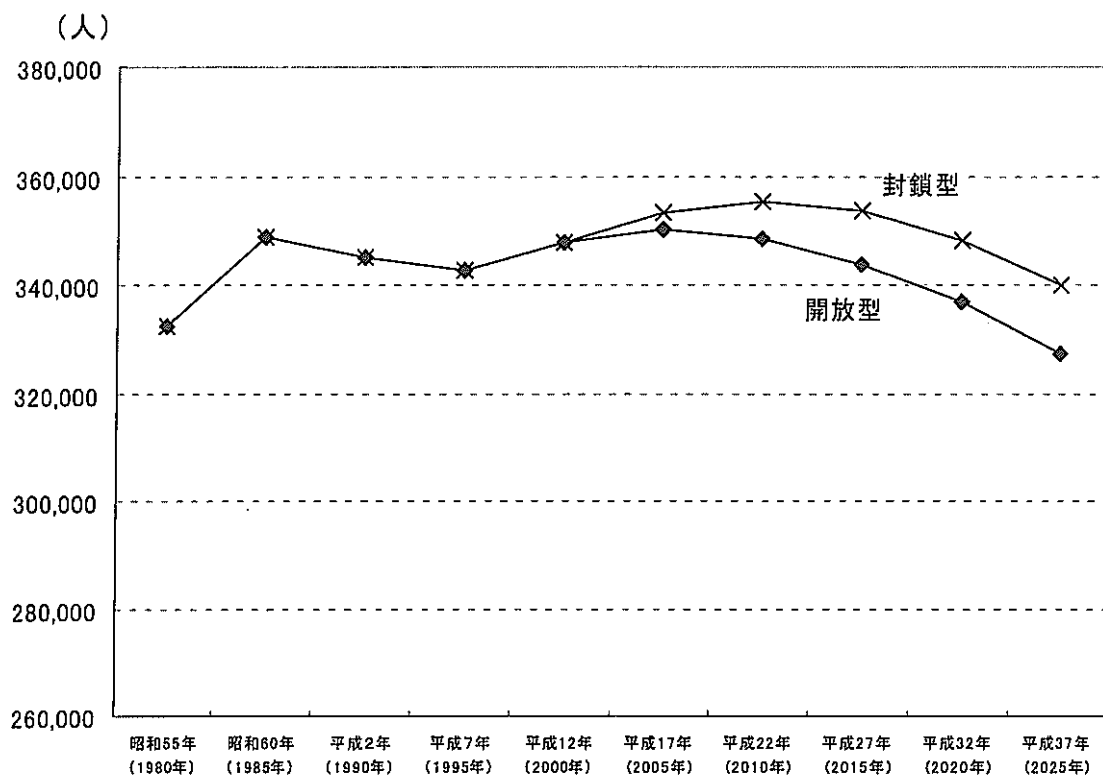


図2 第3次総計の人口推計

表2-1 各推計人口と年齢構成

(単位：上段 人、下段 %)

	平成12年 (2000年)	平成32年 (2020年)			
	実際人口	開放型		封鎖型	
		推計値	増減数・増減率	推計値	増減数・増減率
人口総数	347,929	336,875	-11,054	348,297	368
0～14歳	50,990	44,597	-6,393	41,968	-9,022
	14.7	13.2	-1.5	12.0	-2.7
15～64歳	251,525	219,239	-32,286	217,898	-33,627
	72.4	65.1	-7.3	62.6	-9.8
65歳～	44,885	73,039	28,154	88,431	43,546
	12.9	21.7	8.8	25.4	12.5

注1) 平成12年の3区分別人口は年齢不詳を除く

注2) 推計値は計算の都合上、3区分別人口合計と人口総数の下一桁が合わない場合がある。同じく3区分別人口の割合も合計100%とならない場合がある。

表 2-2 開放型（平成 7～12 年の 5 年間の転出入率）

（単位：上 2 段・最下段 人）

	平成7年 (1995年)	平成12年 (2000年)	平成17年 (2005年)	平成22年 (2010年)	平成27年 (2015年)	平成32年 (2020年)	平成37年 (2025年)
男	170,177	171,913	172,272	170,272	166,767	162,684	157,653
女	172,583	176,016	177,971	178,348	177,012	174,191	169,806
0～14歳(人)	53,380	51,069	52,387	52,270	48,957	44,597	40,688
(%)	15.6	14.7	15.0	15.0	14.2	13.2	12.4
15～64歳(人)	254,555	251,910	244,782	234,847	223,563	219,239	215,400
(%)	74.3	72.4	69.9	67.4	65.0	65.1	65.8
65歳～(人)	34,825	44,950	53,074	61,504	71,258	73,039	71,371
(%)	10.2	12.9	15.2	17.6	20.7	21.7	21.8
合計	342,760	347,929	350,243	348,620	343,779	336,875	327,459

注) 平成 7・12 年は「国勢調査」をもとに、年齢不詳人口を按分補整した人口

表 2-3 封鎖型（社会移動を含まない）

（単位：上 2 段・最下段 人）

	平成7年 (1995年)	平成12年 (2000年)	平成17年 (2005年)	平成22年 (2010年)	平成27年 (2015年)	平成32年 (2020年)	平成37年 (2025年)
男	170,177	171,913	174,088	174,439	172,745	169,168	164,244
女	172,583	176,016	179,348	181,090	181,037	179,129	175,603
0～14歳(人)	53,380	51,069	51,913	51,245	47,133	41,968	37,587
(%)	15.6	14.7	14.7	14.4	13.3	12.0	11.1
15～64歳(人)	254,555	251,910	245,566	236,117	223,930	217,898	212,433
(%)	74.3	72.4	69.5	66.4	63.3	62.6	62.5
65歳～(人)	34,825	44,950	55,956	68,168	82,719	88,431	89,828
(%)	10.2	12.9	15.8	19.2	23.4	25.4	26.4
合計	342,760	347,929	353,436	355,529	353,782	348,297	339,847

注) 平成 7・12 年は「国勢調査」をもとに、年齢不詳人口を按分補整した人口

2-2 推計結果の評価

(1) 開放型

人口は平成 17 年まで増加した後に減少に転じる。目標年次である平成 32 年時点では平成 12 年と比較して約 1 万 1 千人(3.2%)減少するとの結果が算出された。

開放型の推計値算出においては、直近の 5 年間の人口動態の影響を大きく受けるが、社会移動を考慮しない封鎖型と比較すると人口が少なく算出されており、直近の 5 年間では実際人口は増加していたが、社会減の傾向であったことが伺える。

したがって、推計人口はこれまで続いている社会減の影響に加え、全国的な少子・高齢化の傾向による自然減の影響を受けて、人口は平成 17 年以降減少すると考えられる。

年齢構成では、老年人口が 21.7%、年少人口が 13.2%と見込まれている。

(2) 封鎖型

人口は平成 22 年まで増加した後に減少傾向となる。目標年次である平成 32 年時点では平成 12 年と比較して人口はほぼ同じ(0.1%増加)との結果が算出された。

封鎖型人口は社会移動が無いと想定した人口であるが、その場合平成 32 年までは現状以上の人口になると算出された。

3 地域ブロック別の人口推計と評価

3-1 JR 以南地域

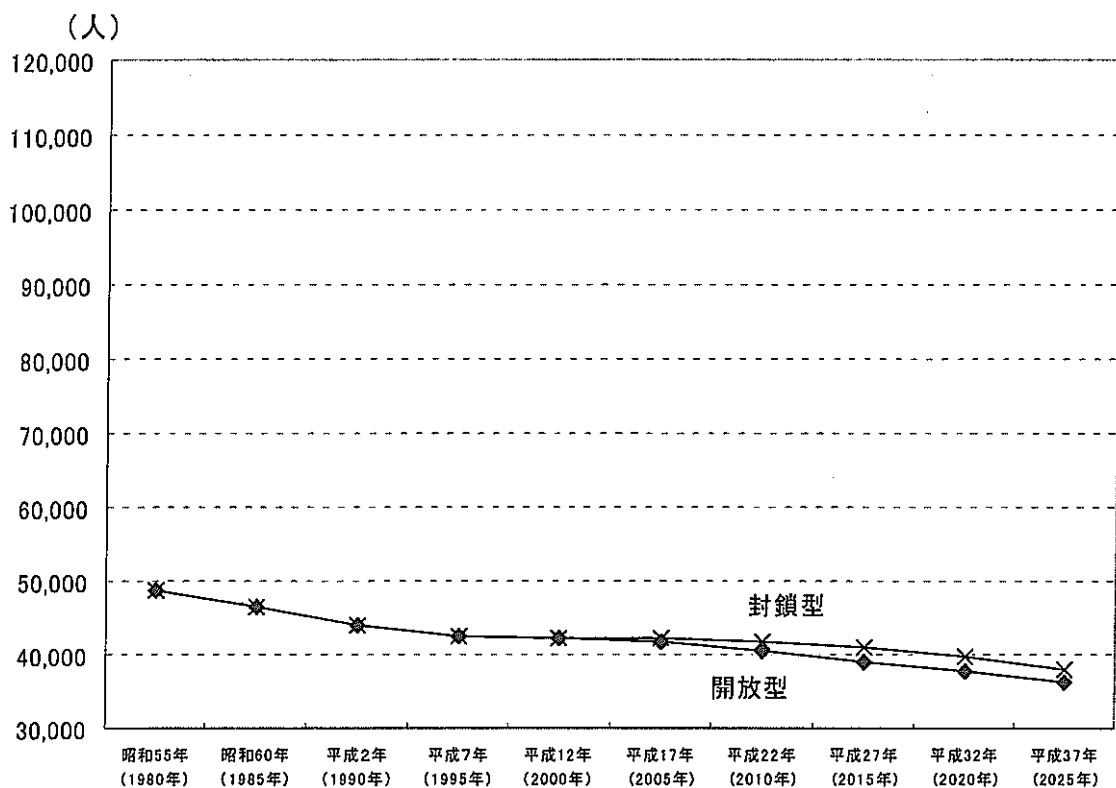


図 3-1 第 3 次総計の人口推計

表 3-1 各推計人口と年齢構成

(単位：上段 人、下段 %)

	平成 12 年 (2000 年)	平成 32 年 (2020 年)			
		開放型		封鎖型	
		推 計 値	増減数・増減率	推 計 値	増減数・増減率
人口総数	42,167	37,663	-4,504	39,631	-2,536
0～14 歳	4,782	4,781	-1	4,644	-138
	11.3	12.7	1.4	11.7	0.4
15～64 歳	29,559	23,050	-6,509	23,458	-6,101
	70.1	61.2	-8.9	59.2	-10.9
65 歳～	7,796	9,832	2,036	11,529	3,733
	18.5	26.1	7.6	29.1	10.6

注 1) 平成 12 年の 3 区分別人口は年齢不詳を除く

注 2) 推計値は計算の都合上、3 区分別人口合計と人口総数の下一桁が合わない場合がある。同じく 3 区分別人口の割合も合計 100%とならない場合がある。

3-2 片山・岸部地域

(人)

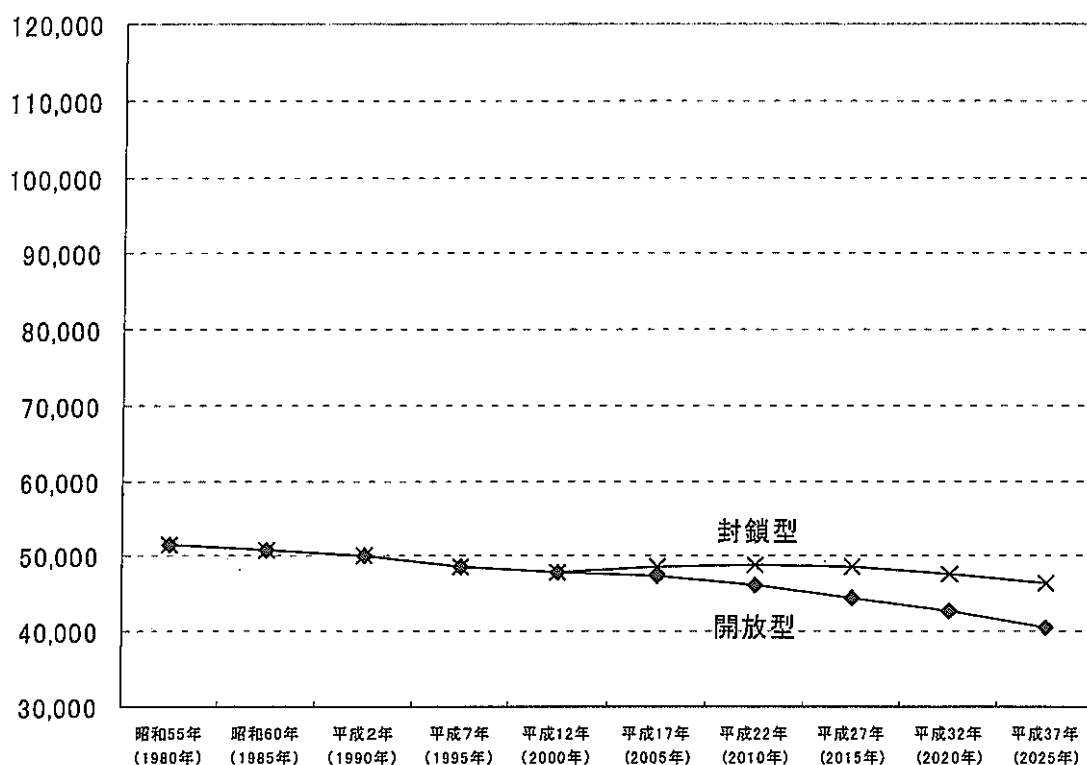


図 3-2 第3次総計の人口推計

表 3-2 各推計人口と年齢構成

(単位：上段 人、下段 %)

	平成12年 (2000年)	平成32年 (2020年)			
		開放型		封鎖型	
		推計値	増減数・増減率	推計値	増減数・増減率
人口総数	47,957	42,647	-5,310	47,732	-225
0～14歳	6,717	5,829	-888	5,833	-884
	14	13.7	-0.3	12.2	-1.8
15～64歳	34,615	27,359	-7,256	29,773	-4,842
	72.3	64.2	-8.1	62.4	-9.9
65歳～	6,550	9,460	2,910	12,126	5,576
	13.7	22.2	8.5	25.4	11.7

注1) 平成12年の3区分別人口は年齢不詳を除く

注2) 推計値は計算の都合上、3区分別人口合計と人口総数の下一桁が合わない場合がある。同じく3区分別人口の割合も合計100%とならない場合がある。

3-3 豊津・南吹田地域

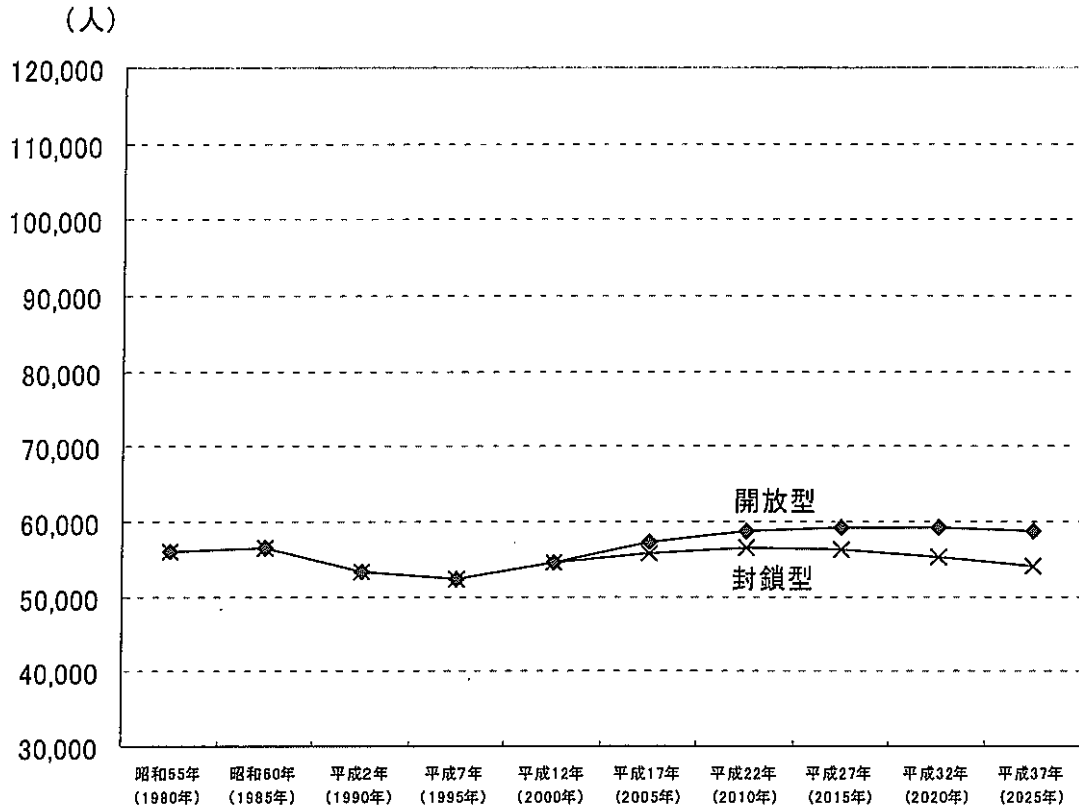


図 3-3 第 3 次総計の人口推計

表 3-3 各推計人口と年齢構成

(単位：上段 人、下段 %)

	平成 12 年 (2000 年)	平成 32 年 (2020 年)			
		開放型		封鎖型	
		推 計 値	増減数・増減率	推 計 値	増減数・増減率
人口総数	54,618	59,241	4,623	55,432	814
0～14 歳	6,728	7,266	538	6,589	-139
	12.3	12.3	0	11.9	-0.4
15～64 歳	41,603	40,941	-662	35,072	-6,531
	76.3	69.1	-7.2	63.3	-13
65 歳～	6,183	11,034	4,851	13,771	7,588
	11.3	18.6	7.3	24.8	13.5

注 1) 平成 12 年の 3 区分別人口は年齢不詳を除く

注 2) 推計値は計算の都合上、3 区分別人口合計と人口総数の下一桁が合わない場合がある。同じく 3 区分別人口の割合も合計 100%とならない場合がある。

3-4 千里山・佐井寺地域

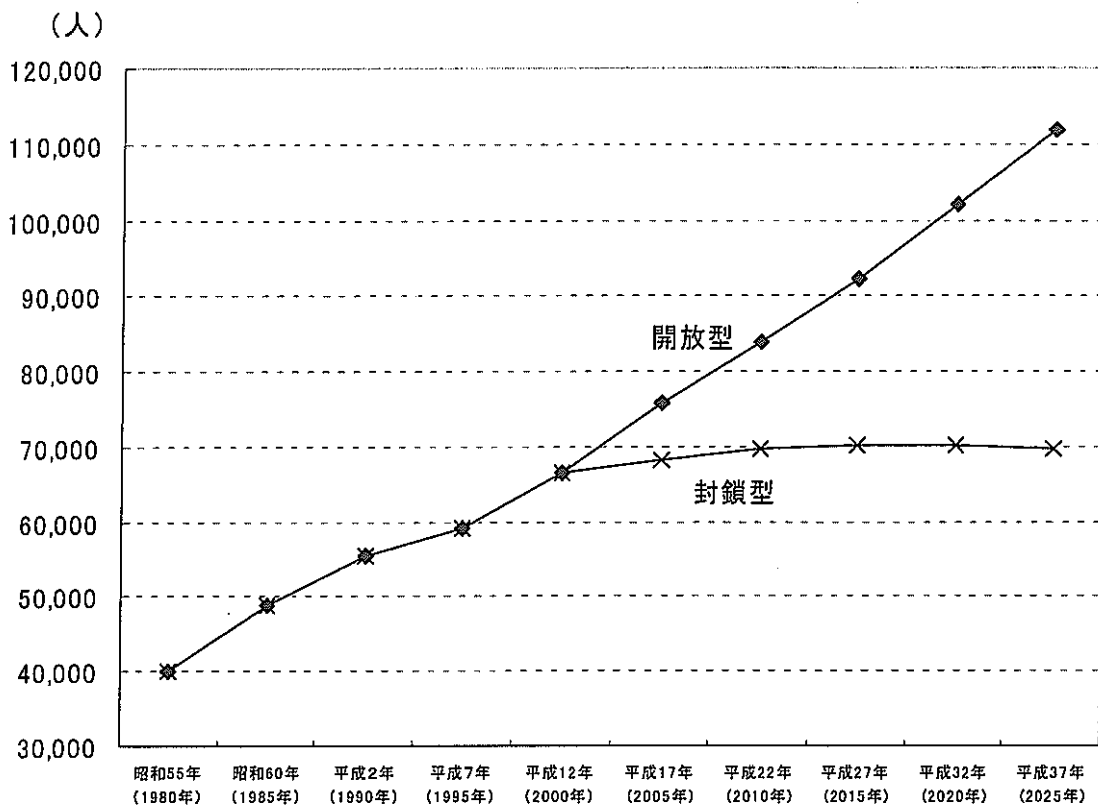


図 3-4 第3次総計の人口推計

表 3-4 各推計人口と年齢構成

(単位：上段 人、下段 %)

	平成12年 (2000年)	平成32年 (2020年)			
	実際人口	開放型		封鎖型	
		推計値	増減数・増減率	推計値	増減数・増減率
人口総数	66,501	101,978	35,477	70,293	3,792
0～14歳	11,681	15,424	3,743	8,909	-2,772
	17.6	15.1	-2.5	12.7	-4.9
15～64歳	48,845	74,374	25,529	46,964	-1,881
	73.6	72.9	-0.7	66.8	-6.8
65歳～	5,811	12,180	6,369	14,420	8,609
	8.8	11.9	3.1	20.5	11.7

注1) 平成12年の3区分別人口は年齢不詳を除く

注2) 推計値は計算の都合上、3区分別人口合計と人口総数の下一桁が合わない場合がある。同じく3区分別人口の割合も合計100%とならない場合がある。

3-5 山田・千里丘地域

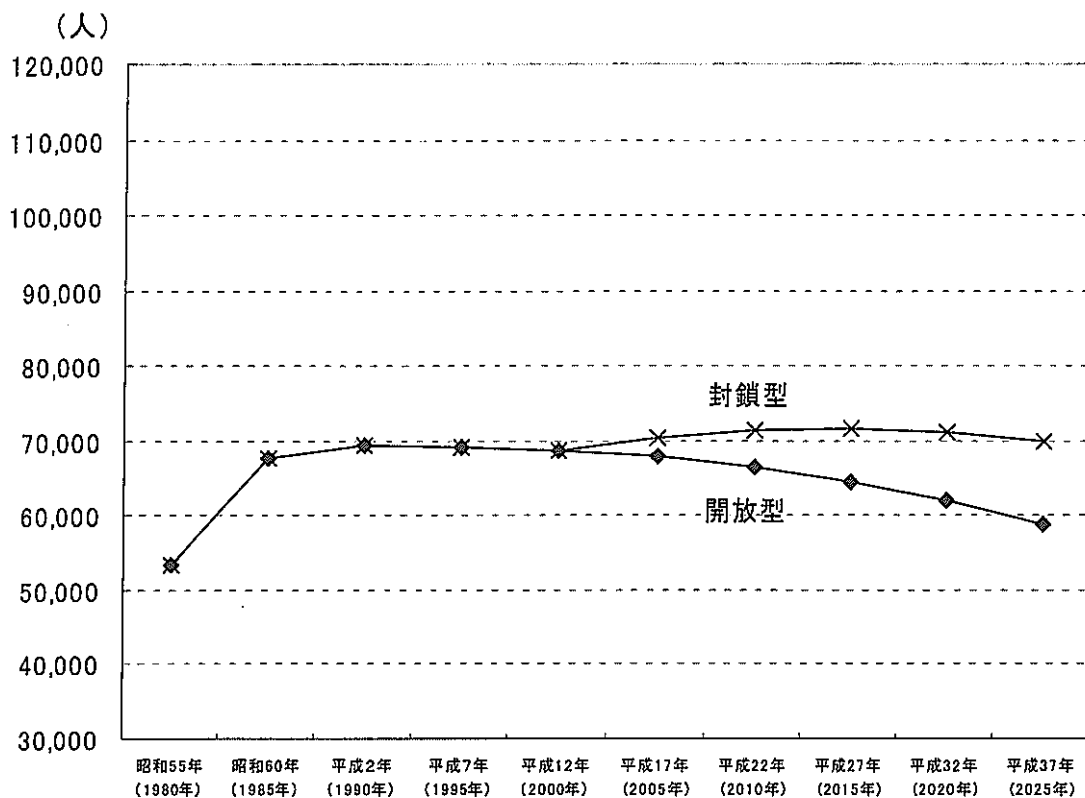


図 3-5 第3次総計の人口推計

表 3-5 各推計人口と年齢構成

(単位: 上段 人、下段 %)

	平成12年 (2000年)	平成32年 (2020年)			
	実際人口	開放型		封鎖型	
		推計値	増減数・増減率	推計値	増減数・増減率
人口総数	68,744	61,969	-6,775	71,189	2,445
0～14歳	11,375	8,397	-2,978	8,802	-2,573
	16.5	13.6	-2.9	12.4	-4.1
15～64歳	51,195	39,473	-11,722	44,100	-7,095
	74.6	63.7	-10.9	61.9	-12.7
65歳～	6,091	14,099	8,008	18,286	12,195
	8.9	22.8	13.9	25.7	16.8

注1) 平成12年の3区分別人口は年齢不詳を除く

注2) 推計値は計算の都合上、3区分別人口合計と人口総数の下一桁が合わない場合がある。同じく3区分別人口の割合も合計100%とならない場合がある。

3-6 千里ニュータウン地域

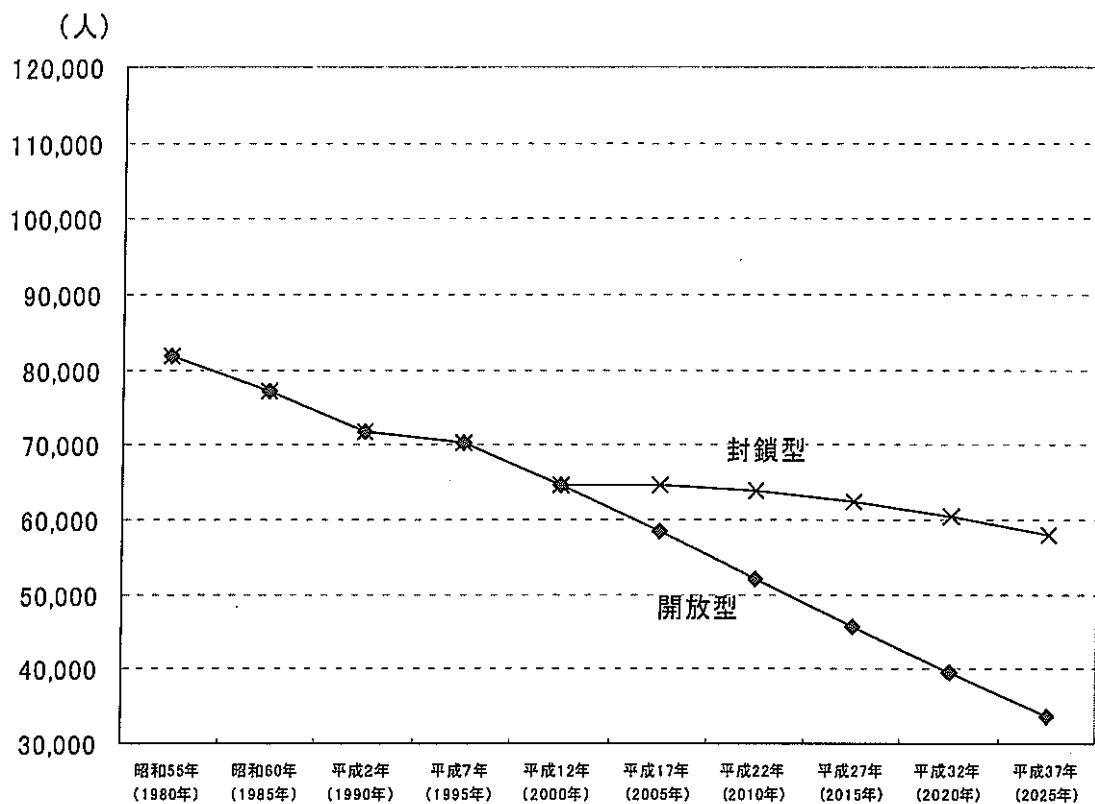


図 3-6 第3次総計の人口推計

表 3-6 各推計人口と年齢構成

(単位：上段 人、下段 %)

	平成12年 (2000年)	平成32年 (2020年)			
	実際人口	開放型		封鎖型	
		推計値	増減数・増減率	推計値	増減数・増減率
人口総数	64,678	39,567	-25,111	60,480	-4,198
0～14歳	8,828	4,224	-4,604	6,810	-2,018
	13.7	10.7	-3	11.3	-2.4
15～64歳	43,443	20,204	-23,239	35,888	-7,555
	67.2	51.1	-16.1	59.3	-7.9
65歳～	12,334	15,139	2,805	17,783	5,449
	19.1	38.3	19.2	29.4	10.3

注1) 平成12年の3区分別人口は年齢不詳を除く

注2) 推計値は計算の都合上、3区分別人口合計と人口総数の下一桁が合わない場合がある。同じく3区分別人口の割合も合計100%とならない場合がある。

3-7 万博記念公園・大阪大学地域

万博記念公園・大阪大学地域は人口が少なく、年齢階層別にみると人口のない階層があり、各年齢階層毎の転出入率が算出できないため、コーホート要因法での算出は困難である。

平成12年以降の万博記念公園・大阪大学地域の人口推移（住民基本台帳人口）をみると、3,100～3,200人程度でほぼ横ばいである。また、土地利用の状況からみても、既に公園や大学等の施設が地域の大部分を占めており、新たな住宅開発の余地は少ないと考えられる。

表 3-7 万博記念公園・大阪大学地域での人口推移

（単位：人）

平成 12 年	平成 13 年	平成 14 年	平成 15 年
3, 133	3, 170	3, 149	3, 130

資料：住民基本台帳人口（9月末日）

したがって、現状程度の人口が将来的にも維持され则认为、この地域における平成32年の将来人口は、平成12年の国勢調査人口と同じ3,264人と設定する。

3-8 地域ごとの人口構造の特性

各地域の今後の人口動向を、社会移動を考慮した開放型による推計と封鎖型による推計を比較し以下のようにまとめた。概して、旧市街地や千里ニュータウン地域では高齢化の進展と人口流出傾向が強く、宅地供給やマンション開発等が進められた地域では高齢化はあまり進まず人口も流入傾向が強い。

表 3-8 地域別人口推計分析

地域名	封鎖型にみる 人口増減 ポテンシャル	社会 移動	開放型に おける推計 人口の増減	推計人口の分析
JR 以南	↘ 6.0%減少	流出 傾向	↘ 10.7%減少	・高齢化の進行した地域であり、出生数も少なく現状の人口を維持できない状況にある。 ・また、人口も流出傾向にある。
片山 岸部	→ 現状維持 (0.5%減少)	流出 傾向	↘ 11.1%減少	・現状の人口を維持できるポテンシャルを有している。 ・しかし、人口は流出傾向にある。
豊津 南吹田	→ 現状維持 (1.5%増加)	流入 傾向	↗ 8.5%増加	・現状の人口を維持できるポテンシャルを有している。 ・近年の地価の下落に伴い、利便性の高い立地にある当地域では人口が流入傾向にある。
千里山 佐井寺	↗ 5.7%増加	流入 傾向	↗ 53.3%増加	・区画整理により近年住宅宅地が供給された地域であり、若い世代が多いため出生数も多い。 ・また、人口も流入傾向にある。
山田 千里丘	→ 現状維持 (3.6%増加)	流出 傾向	↘ 9.9%減少	・現状の人口を維持するポテンシャルを有している。 ・しかし、人口は流出傾向にある。
千里 ニュータウン	↘ 6.5%減少	流出 傾向	↘ 38.8%減少	・入居以来の単一世代により形成され、現在高齢化が進み、今後もより進むと推計される。出生数が少なく現状の人口を維持できない状況にある。 ・また、人口も大幅な流出傾向にある。

注 1) 「↗」は人口増加、「↘」は人口減少、「→」は人口の増減が5%未満。

以上は、平成7年から12年の人口動向により推計したため、千里山・佐井寺地域では土地の関係で今後大きな開発が見込めないこと、山田・千里丘地域では直近の人口増加が加味されていないこと、あるいは千里ニュータウンでの今後の大規模な公的住宅の建替えなど、地域別推計を見る場合には、地域ごとに個別に評価する必要があるが生じている。

3-9 各地域ブロック別の推計人口の合計と全市で行った推計人口の比較

各地域ブロック別の推計人口の合計と全市で行った推計人口の比較を以下に行った。(ただし、万博記念公園・大阪大学地域は平成12年国勢調査の人口で推移すると設定した。)

開放型の場合、目標年次である平成32年の地域ブロック別推計人口の合計は全市の推計人口よりも9,453人多い。この差が生じる理由としては、それぞれの地域ブロック毎の人口推移を基にした転出入率を用いて各地域ブロック別人口を推計し合計するため、各地域の人口移動の状況がより強く反映されたためと考えられる。

なお、封鎖型人口ではブロック別推計人口が全市の推計人口より276人少ない。

表3-9-1 開放型(平成7～12年の5年間の転出入率)

(単位:人)

	平成7年 (1995年)	平成12年 (2000年)	平成17年 (2005年)	平成22年 (2010年)	平成27年 (2015年)	平成32年 (2020年)	平成37年 (2025年)
地域積み上げ・開放型	342,760	347,929	351,657	351,362	348,624	346,329	343,238
全市・開放型	342,760	347,929	350,243	348,620	343,779	336,875	327,459
地域積み上げー全市	0	0	1,413	2,742	4,846	9,453	15,779

表3-9-2 封鎖型(社会移動を含まない)

(単位:人)

	平成7年 (1995年)	平成12年 (2000年)	平成17年 (2005年)	平成22年 (2010年)	平成27年 (2015年)	平成32年 (2020年)	平成37年 (2025年)
地域積み上げ・封鎖型	342,760	347,929	353,310	355,337	353,548	348,021	339,527
全市・封鎖型	342,760	347,929	353,436	355,529	353,782	348,297	339,847
地域積み上げー全市	0	0	-126	-192	-234	-276	-320

4 将来人口の想定

前述した推計結果を参考に、将来人口を想定するためには、今後の人口動向に影響を与える要因としてどのようなものがあるかを整理する必要がある。そこで人口変動の要因や今後の開発の動向などを考慮して、今後の人口動向に影響を与える要因について整理した。

(1) 千里ニュータウンにおける住宅団地の建替え

千里ニュータウンの人口は、昭和 50 年の 86,501 人（国勢調査人口）をピークに減少が続いており、平成 12 年では 64,678 人となっている。その後も住民基本台帳人口は年々減少しているが、その減少幅は縮小している。これは、まち開きから 40 年が経過する中で、住民の高齢化が進むとともに、子どもを抱えた核家族世帯が、世帯分離により夫婦世帯あるいは単独世帯へと変化するることにより、一定の時期に発生したもので、今後はこの減少は収まっていくものと考えられる。

一方、40 年を経過した現在、居住水準の向上や高齢化に伴うバリアフリー化のニーズ、あるいは住宅の老朽化もあいまって、住宅の建替えを含めたまちのあり方が具体的な検討課題となっている。過去 5 年間の人口変動による将来人口推計では、大きく人口が減少する結果となった千里ニュータウンでは、今後良好なまちなみを維持しながら人口を誘導するような住宅の建替えが求められている。しかも高齢化を視野に入れまちの活性化に向けて各世代が交流できるまちづくりが求められている。これらのことにより、人口の大幅な減少を避けることができると考える。

(2) 企業所有地での住宅建設や再開発に伴う人口の動向予想

更に人口増加の要因としては、千里丘における企業所有地内での寮や社宅が共同住宅として供給が見込まれることや、JR 岸辺駅周辺での大規模工場跡地を含む面的整備事業などとの関連があげられる。直ちに人口増加数を予測することは困難であるが、今後の増加要因としては留意する必要がある。

(3) 若年ファミリー層の受け入れ

本市の住宅の特徴に、共同賃貸住宅の多さがあげられる。これは若年ファミリー層の受け皿となっており、30 歳代と子ども世代の転入超過に現れている。このことは、全国や大阪府全体で今後人口が減少すると予測される中で、今後どこに住むかを選択する場合に、交通の利便性と合わせてその居住環境のよさが挙げられるが、本市は、これまでその選択の中で一定の評価を得ることができてきたのではないかと考えられる。

今後、なお一層そのような傾向が続く中においては、良好な住環境と合わせて、子どもを育てる環境の整備についても強く求められるものである。

以上により、今後も魅力と活力のあるまちを維持するため、地域ごとの課題に対応しつつ、良好な住宅の維持・誘導などの定住性の高い魅力ある環境の整備や子育て支援策の積極的な推進により、過度の人口の流出・流入を抑制し、バランスのとれた人口配分と年齢構成を実現することなどを前提として、目標年次には現状の人口を維持することとし、将来人口を 35 万人と設定する。